



T-GEx

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業
Tokai Pathways to Global Excellence

令和3年度-令和4年度 年次報告書

目次

1	はじめに	3
2	育成対象者の採用	
2-1	T-GEEx フェロー	5
	1) 令和3年度の採用者	
	2) 令和4年度の採用者	
2-2	T-GEEx アソシエート	6
	1) 令和4年度の採用者	
3	育成プログラム	
3-1	トランスファラブルスキル	7
3-2	e-ポートフォリオ	8
3-3	リトリート合宿	8
3-4	研究成果エキシビション	8
3-5	ロールモデルセミナー	9
3-6	子育て世代の若手研究者支援座談会	9
3-7	学術メンター・企業アドバイザー	10
	1) 令和3年度の採用者	
	2) 令和4年度の採用者	
	3) 学術メンターに対するアンケート調査	
3-8	スタートアップ研究費	12
	1) 令和3年度	
	2) 令和4年度	
3-9	テーラーメイド型研究費	12
	1) 令和3年度	
	2) 令和4年度	
3-10	シーズ共同研究費	13
	1) 令和4年度	
3-11	その他支援	13
3-12	育成プログラムに関するアンケート調査	13
4	モニタリング	
4-1	採用した T-GEEx フェローの属性一覧	15
4-2	T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況	15
4-3	T-GEEx フェローの研究成果の創出状況	16

5	運営体制	
5-1	実施機関	17
5-1-1	令和3年度および令和4年度の実施体制	
5-1-2	運営関係者	
5-2	連携機関	18
1)	令和3年度（事業開始時点）の体制	
2)	令和4年度の変更点	
5-3	委員会等	19
5-3-1	知の「開拓者」コンソーシアム総会	
1)	令和3年度	
2)	令和4年度	
5-3-2	運営協議会	
1)	令和3年度	
2)	令和4年度	
5-3-3	実務委員会	
1)	令和3年度	
2)	令和4年度	
5-3-4	連携会議	
5-3-5	定例会議	
5-4	外部評価委員	22
6	海外の先進事例調査	23

1 はじめに

令和3年10月に立ち上げられた世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業（Tokai Pathways to Global Excellence, T-GEEx）にとって、令和4年度は実質的な事業1年目でした。何とか一通り事業をやり遂げ、こうしてT-GEEx初の年次報告書を皆さまにお届けすることができて、感無量の極みです。この間、T-GEExの事業展開にご尽力くださった名古屋大学と岐阜大学、そして連携学術機関、連携企業の関係者の皆さまには改めてお礼を申し上げます。そして、何よりも、種々のセミナーや催しなどにしばしば企画の段階からアクティブに関与して、T-GEExの事業を盛り上げ、とても豊かなものにしてくれたT-GEExフェローとT-GEExアソシエートに心より感謝したいと思います。

現時点から振り返ると、令和4年度が始まった段階では、第1期T-GEExフェロー8名を採択してから3か月しか経っておらず、運営体制も十分に整っていない状況でした。それでも岐阜大学所属1名を含めて第2期T-GEExフェロー6名、T-GEExアソシエート7名が新たに加わったことで、本事業に集う若手研究者の数が一挙に増え、研究分野の多様性も拡大しました。コロナ禍ということで、キックオフ・ミーティングはオンラインで行いましたが、オンライン交流ツールを活用して、フェロー、アソシエートの良い出合いの機会となったと感じています。

この頃は、運営側にとっても非常に重要な時期となりました。新しい年度を迎えて、吉田URAがT-GEExの専任として着任し、また、事務局のメンバーの入れ替えもありました。加えて、名古屋大学と岐阜大学が東海国立大学機構を基盤として密に協働するシステムを構築する必要もありました。そこで、当初の運営体制に名古屋大学側の定例会議（週1回）と、岐阜大学と名古屋大学の実務委員と事務局が情報共有をはかる連携会議（月1回）を導入しました。このように、徐々にではありますが、大学の枠組みを超えたチームワークの構築を目指してまいりました。

新型コロナ第7波の中で、リトリート合宿を対面方式で行うことは、運営側にとっては大きな決断でしたが、会場となった名古屋東急ホテルにご協力頂き、無事に開催に漕ぎつけました。コロナ禍で長らくリモートでの研究交流ばかりが続いていたことから、参加者の多くにとっては、直接会うのは初めてであったにもかかわらず、2日にわたって、フェロー、アソシエートの間で活発な議論が交わされ、彼らにとっても印象深い経験となったようです。今年度のリトリート合宿は、対面での研究交流の重要性を再認識する機会となったほか、この合宿を通じて共同研究の試みも複数、生まれました。合宿の後に募集したシーズ共同研究費には、2件の応募がありました。

リトリート合宿の余韻が残る中で行われた研究成果エキシビションでは、連携学術機関や企業の事業推進委員、日本にいらっしゃる外部評価委員をお招きして、フェローとアソシエートのみでなく、企業の若手研究者によるポスター発表を行い、大変盛況な催しとなりました。また、ポスター発表に先立って行われた岡田康志先生（理化学研究所・東京大学）と井手剛先生（IBM T.J. Watson Research Center）のご講演からは、研究成果の公表や社会的実装に関する具体的で、有用なアイデアを豊富に学ことができ、若手研究者に留まらず、コンソーシアム参加者全体が大きな刺激を受けたと観察しています。

以上のほかにも、熊坂 URA の尽力で一年を通じてトランスファラブルスキル構築のためのセミナーを提供したほか、ロールモデルセミナーや子育て世代の若手研究者支援座談会を対面で行い、本事業への参加者の間での交流をじっくりと育てるような一年となりました。運営側としては、スタートアップ研究費・テーラーメイド型研究費の審査や評価、メンタリング体制の整備を通じて、フェローやアソシエートの研究活動に密接に接する中で、彼らの伸び代の豊かさを知ることができ、非常に心強く感じています。

このように、令和4年度は盛沢山の一年となりましたが、令和5年度はアソシエートの採用や研究費の支給の開始を前倒しし、より充実した一年にできるように計画しております。

令和5年6月

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業
プログラムマネージャー
武田 宏子

2 育成対象者の採用

2-1 T-GE_x フェロー

1) 令和3年度の採用者

令和3年度のT-GE_xフェローは、名古屋大学で公募した後、名古屋大学における学内選考と実務委員会（選考・評価委員会）の2段階選抜で選考した。1次選考は名古屋大学実務委員による書類選考、2次選考は岐阜大学の実務委員も含めたオンラインの総合面接で実施し、表2-1-1に示した8名の採用を決定した。なお、そのうちの半数（4名）はフェーズ2からの育成開始とした。

表2-1-1 令和3年度に採用されたT-GE_xフェロー（採用時）

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	研究テーマ名	専門分野 (入れば)
令和3年度 (フェーズ2開始)	名古屋大学 秋尾 華子	高等研究院/大学院生命農学研究科 YLC特任助教	魚の高次視覚系の解明とウナギ養殖技術の改善	魚類神経科学
	名古屋大学 早川 尚志	高等研究院/宇宙地球環境研究所 YLC特任助教	歴史文献による過去3000年間の激甚太陽嵐の調査と定量復元	太陽地球環境、宇宙天気、太陽物理、歴史学、環境史
	名古屋大学 横井 暁	医学部附属病院/高等研究院 助教	変遷する女性のトータルヘルスクエア課題－妊娠からがんまで－	医学・細胞生物学
	名古屋大学 宮武 広直	素粒子宇宙起源研究所 准教授	次世代大規模銀河サーベイによる精密銀河団宇宙論	観測的宇宙論
令和3年度	名古屋大学 樋口 諒	高等研究院/大学院人文学研究科 YLC特任助教	産学官民で応用可能な三次元聖堂アーカイブズの構築	建築史/ビザンティン美術
	名古屋大学 SU Matthew Paul	高等研究院/大学院理学研究科 YLC特任助教	Reducing global Aedes aegypti mosquito-borne disease transmission by developing control tools targeting the circadian clock	Mosquito auditory and circadian neuroscience
	名古屋大学 東 直輝	大学院工学研究科 助教	病原菌の世界規模でリアルタイムな感染拡大対策の実現	バイオ計測、ナノ計測、ナノ・マイクロシステム、マイクロナノレオロジー
	名古屋大学 服部 祐季	大学院医学系研究科 特任助教	母体炎症によるミクログリア活性化と脳発生への影響の解明	神経科学

2) 令和4年度の採用者

令和4年度のT-GE_xフェローは、名古屋大学と岐阜大学で公募した後、令和3年度と同様に学内選考と実務委員会（選考・評価委員会）の2段階選抜で選考した。そして、表2-1-2に示した6名の採用を決定した。

表 2-1-2 令和 4 年度に採用された T-GEEx フェロー（採用時）

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	研究テーマ名
令和 4 年度	名古屋大学	高等研究院/宇宙地球環境研究所 石塚 紳之介 YLC特任助教	ナノサイズ不均質構造を考慮したエアロゾル吸湿性評価
	名古屋大学	高等研究院/宇宙地球環境研究所 中村 紗都子 YLC特任助教	宇宙天気災害における地磁気誘導電流の日本電力網へのリスク評価
	名古屋大学	高等研究院/大学院医学系研究科 飯島 弘貴 YLC特任助教	加齢性疾患をドライブするエピジェネティック制御機構の探求
	名古屋大学	大学院工学研究科 市原 大輔 助教	宇宙機再突入時の排出物に関する国際規制基準の欠如
	名古屋大学	ジェンダーダイバーシティセンター 町田 奈緒士 特任助教	発達障害を持つトランスジェンダーの人々の実態と体験世界の解明
	岐阜大学	高等研究院/大学院連合創薬医療情報研究科 平島 一輝 G-YLC特任助教	ミトコンドリア栄養代謝を標的とした新しいがん治療戦略

2-2 T-GEEx アソシエート

1) 令和 4 年度の採用者

令和 4 年度の T-GEEx アソシエートは、各連携学術機関（5 機関）において募集と推薦者の選考を実施していただき、実務委員会（選考・評価委員会）における応募書類の確認を経て、承認した。そして、表 2-2 に示した 8 名の採用を決定した。なお、採用された T-GEEx アソシエートには、名古屋大学高等研究院客員研究員の身分を付与し、東海国立大学機構の設備・機器共用システムや図書館の利用も可能とした上で育成を開始した。

表 2-2 令和 4 年度に採用された T-GEEx アソシエート（採用時）

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	専門分野
令和 4 年度	中部大学	生命健康科学部生命医科学科 新谷 正嶺 講師	生物物理学、生理学、生体医工学
	中部大学	人文学部心理学科 田中 秀紀 准教授	臨床心理学
	三重大学	工学部工学研究科 XIAO Shiyu 特任助教	工学系科学、結晶工学、半導体関連
	南山大学	人文学部人類文化学科 中尾 央 准教授	自然哲学
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科 西川原 理仁 助教	伝熱工学、流体工学、気液二相流、電気流体力学
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科 田村 秀希 助教	視覚科学、感性工学、認知科学
	名城大学	農学部応用生物化学科 近澤 未歩 助教	食品科学

3 育成プログラム

3-1 トランスファラブルスキル

T-GEExの育成プログラムでは、T-GEExフェロー、アソシエートが身に着ける様々なトランスファラブルスキルを、6つのコンピテンシー（高度な専門性、協働力、課題発見力、世界の潮流をつかむ力、出口志向感覚、研究推進力）からなる知の「開拓者」スキルフレームワークで整理・分類して設定している。T-GEExフェロー、アソシエートは、スキルブースターモジュールへの参加、研究活動、社会実践活動等を通して、これらのコンピテンシーを向上させる。

令和3年度はスキルブースターモジュールを2回、令和4年度は20回開催した。詳細は表3-1の通りである。

表3-1 令和3年度と令和4年度に実施したスキルブースターモジュール

年度	開催日	講座等名称	モジュールの分類	コンピテンシー					
				協働力	高度な専門性	課題発見能力	世界の潮流をつかむ	出口志向感覚	研究推進力
令和3年度	2022年1月25日14:00-15:30	PI育成セミナー 『大学発ベンチャーの創り方～ベンチャー設立経験談と学内資金調達攻略～』	社会実践活動						
	2022年3月9日14:00-16:00	PI育成セミナー 『チーム力向上のためのアンガーマネジメント』	マネジメントスキル コミュニケーション						
令和4年度	2022年6月21日14:00-16:00	PI育成セミナー 『研究指導を振り返る』	マネジメントスキル コミュニケーション						
	2022年7月8日14:00-16:00	PI育成セミナー 『伝わるデザインスキル（前編）伝わる申請書のビジュアルデザイン』	マネジメントスキル						
	2022年7月19日14:00-16:00	PI育成セミナー 『伝わるデザインスキル（後編）伝わる効果的なプレゼンテーション』	コミュニケーション						
	2022年7月27日14:00-15:00	PI育成セミナー 『科研費攻略セミナー2022』	マネジメントスキル						
	2022年10月25日14:00-15:30	PI育成セミナー 『研究成果を活かすための知的財産の基礎知識』	マネジメントスキル 社会実践活動						
	2022年11月25日14:00-15:30	PI育成セミナー 『チーム力を高める（前編）～指導する側とされる側の良好な関係性とは？～』	マネジメントスキル コミュニケーション						
	2022年12月14日14:00-16:00	PI育成セミナー 『チーム力を高める（後編）～指導者として必要な考え方とコミュニケーションスキルとは？～』	マネジメントスキル コミュニケーション						
	2023年1月31日14:00-15:30	PI育成セミナー 『大学発ベンチャーの創り方～ベンチャー設立経験談と学内資金調達攻略～』	社会実践活動						
	2023年3月14日14:00-15:00	PI育成セミナー 『それもハラスメント！？～事例に学ぶ、大学で起きるハラスメントの特徴と対応方法～』	マネジメントスキル コミュニケーション						
	2022年9月22日13:30-14:30	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『キャリアについて考える』	ロールモデル研究						
	2022年10月28日13:30-15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step1』	マネジメントスキル						
	2022年11月22日13:30-15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『研究者にとってのタイムマネジメント』	マネジメントスキル						
	2022年12月16日13:30-15:30	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『円滑なコミュニケーションのためのアンガーマネジメント』	マネジメントスキル コミュニケーション						
	2023年1月13日13:30-15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step2』	マネジメントスキル						
	2022年9月14日13:30-19:30	リトリート合宿：1日目「知る日」	ネットワーク構築 リトリート						
	2022年9月15日9:30-16:00	リトリート合宿：2日目「創る日」	ネットワーク構築 リトリート						
	2022年11月7日13:00-16:50	研究成果エキシビション	ネットワーク構築 コミュニケーション						
	2022年12月22日15:30-17:00	ロールモデル研究セミナー	ロールモデル研究						
2023年1月26日15:00-16:30	若手研究者支援についての座談会（1） -子育て世代に必要な支援を考えたみませんか？-	マネジメントスキル							
2023年3月6日10:00-11:30	世界で活躍することを目指す若手研究者のための英語力向上セミナー	コミュニケーション マネジメントスキル							

3-2 e-ポートフォリオ

T-GEEx プログラムへの参加を通じて、育成期間中に6つの知の「開拓者」コンピテンシーがどのように向上していくのかを分析するためのツールとして、T-GEEx フェロー向けに、e-ポートフォリオを開発した。e-ポートフォリオでは、T-GEEx フェローが、①研究活動を通して向上したコンピテンシー、②スキルブースターモジュールの参加を通して向上が期待されるコンピテンシーを記録する。さらに、③学術メンター・企業アドバイザーとの面談についても記録し、研究活動全般を振り返るためのツールとして使用できるように構築した。

3-3 リトリート合宿

- 日時：令和4年9月14日～9月15日（1日目：13時～19時、2日目：9時30分～16時）
- 場所：名古屋東急ホテル 会場：梅

T-GEEx フェロー、アソシエートが交流し、「集合知の形成・共有」や「異分野共同研究」につながる次世代研究者ネットワークを構築する機会として、リトリート合宿を開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースとして位置付け、T-GEEx フェロー3名とT-GEEx アソシエート2名が担った。1日目は、お互いを知り、親睦を深める「知る日」とし、互いの分野と分野間の相違について議論を行った。2日目は、集合知の形成・共有を行う「創る日」とし、研究のプロセスや研究者のキャリアパスについて相互理解を深め、また、研究者が描く「未来社会」について議論を行った。16名が参加し（現地参加：14名、オンライン2名）、相互理解が深まり、シーズ共同研究費への提案にもつながった。

3-4 研究成果エキシビション

- 日時：令和4年11月7日13時～17時
- 場所：名古屋大学物質科学国際研究センター「野依記念学術交流館」

研究成果の発信、研究の発展や社会実装に向けた情報収集と情報交換、人脈構築等を実践する機会として、研究成果エキシビションを開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースと位置付け、T-GEEx フェロー3名とT-GEEx アソシエート2名が担った。令和4年度は、開催テーマとして「技術"アセット"を有効活用した今後の産学連携」を掲げ、2題の招待講演（理化学研究所・岡田康志先生とIBM T.J. Watson Research Center・井手剛先生）、21演題から成るポスターセッション（企業研究者を含む）の2部構成で実施した。参加者は90名を超え、熱のこもった活発な意見交換が繰り広げられた。

3-5 ロールモデルセミナー

- 日時：令和4年12月22日15時～17時
- 場所：JRゲートタワーカンファレンス（名古屋駅）

第一線で活躍する研究者をお迎えして研究キャリアの分岐点、ライフイベントとの両立、次世代へ伝えたいメッセージをお話いただき、若手研究者が自分の目指す研究者像を考える企画を開催した。第1回のロールモデルには、T-GEEx実務委員会のメンバーである名古屋大学大学院生命農学研究科の榊原均教授に講師を依頼した。榊原教授は、近年連続して Highly Cited Researchers（クラリベイト・アナリティクスが高被引用論文著者を研究分野ごとに選出）として上位1%に選出され、植物分野の研究において大変影響力の大きな研究者として認知されている。研究室を主宰する現在のお立場に至るまでのキャリアアップ（研究組織の異動）、マネジメント（運営責任）、ライフイベントとのバランスをどのように考え、決断し、困難を乗り越えてこられたのかについてお話を伺うことができた。若手へのメッセージとして「同じ環境にいることは最大パフォーマンスを下げることはあっても上げることはない」、「安定ばかりに目を向けると大きなチャンスを逃すかもしれない」、研究環境の改善について「最初に感じた違和感を忘れない」とのお言葉があり、T-GEExメンバーがプログラムを通じて挑戦することの重要性について運営側の期待を伝えて頂く機会にもなった。

3-6 子育て世代の若手研究者支援座談会

- 日時：令和4年1月26日15時～16時30分
- 場所：名古屋大学理学B館5F大談話室

T-GEExのメンバーは30代中心で、20代と比較するとライフイベントによる変化が大きく、しばしばワークライフバランスや研究環境に対する悩み・要望が漏れ聞こえてくる。そのため、若手研究者が直面している問題を理解するために第1回座談会を開催した。これまでも女性研究者支援の重要性は認識されてきたが、今後は男性研究者の育休や育児参加も増大すると予想されることから、そのような社会変化も考慮した上で制度の問題を把握し、組織的な改善へ繋げることを目指す。具体的な要望例としては、「雇用財源の違いに依らず、産休・育休分の任期の延長を認めて欲しい」、「学内に5年間の保育施設を整備して欲しい」などがあり、若手研究者のキャリア形成を大きく左右する「業績評価システムの見直し」、「業績を出し続けられる環境支援」などの改善が必要であることが明らかとなった。

3-7 学術メンター・企業アドバイザー

1) 令和3年度の採用者

令和3年度に採用された T-GEEx フェロー8名に対しては、研究内容や選択した育成トラックを考慮の上、表 3-6-1 のように1人目の学術メンターと、2人目の学術メンターあるいは企業アドバイザーを配置した。1人目の学術メンターはフェーズ1からとし、2人目の学術メンターあるいは企業アドバイザーはフェーズ2から配置してメンタリングを実施した。

表 3-6-1 令和3年度に採用された T-GEEx フェローの学術メンターと企業アドバイザー

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	育成トラック	学術メンター1 (大学 所属部局 氏名 職名)	学術メンター2 (大学 所属部局 氏名 職名)	企業アドバイザー (企業名 氏名 職名)
令和3年度	名古屋大学	高等研究院/大学院人文学研究科 樋口 諒 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学 人文学研究科 木俣 元一 教授	名古屋大学 人文学研究科 川本 悠紀子 准教授	—
	名古屋大学	高等研究院/大学院理学研究科 SU Matthew Paul YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 理学研究科 上川内 あづさ 教授	名古屋大学 トランスフォーマ ティブ生命分子研究所 廣田 毅 特任准教授	—
	名古屋大学	大学院工学研究科 東 直輝 助教	学際共同研究	名古屋大学 工学研究科 福澤 健二 教授	名古屋大学 医学系研究科 柴山 恵吾 教授	—
	名古屋大学	大学院医学系研究科 服部 祐季 特任助教	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学 医学系研究科 宮田 卓樹 教授	名古屋大学 医学系研究科 和氣 弘明 教授	—
	名古屋大学	高等研究院/大学院生命農学研究科 萩尾 華子 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究 産学連携	名古屋大学 生命農学研究科 山本 直之 教授	—	愛知電機株式会社 桑原 祐 システム開発 センター副センター長
	名古屋大学	高等研究院/宇宙地球環境研究所 早川 尚志 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 草野 完也 教授	名古屋大学 人文学研究科 周藤 芳幸 教授	—
	名古屋大学	医学部附属病院/高等研究院 横井 暁 助教	産学連携	名古屋大学 医学系研究科 梶山 広明 教授	—	豊田中央研究所 内藤 貴志、SEE (シニア エグゼクティブエンジニア)
	名古屋大学	素粒子宇宙起源研究所 宮武 広直 准教授	国際共同研究	名古屋大学 素粒子宇宙起源研究所 市来 淨興 教授	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 伊藤 好孝 教授	—

2) 令和4年度の採用者

令和4年度に採用された T-GEEx フェロー6名に対しては、研究内容を考慮の上、表 3-6-2 のように1人目の学術メンターを配置した。

表 3-6-2 令和4年度に採用された T-GEEx フェローの学術メンターと企業アドバイザー

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	育成トラック	学術メンター1 (大学 所属部局 氏名 職名)
令和4年度	名古屋大学	高等研究院/宇宙地球環境研究所 石塚 紳之介 YLC特任助教	学際共同研究	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 持田 陸宏 教授
	名古屋大学	高等研究院/宇宙地球環境研究所 中村 紗都子 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究 産学連携	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 三好 由純 教授
	名古屋大学	高等研究院/大学院医学系研究科 飯島 弘貴 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 医学系研究科 松井 佑介 准教授
	名古屋大学	大学院工学研究科 市原 大輔 助教	学際共同研究	名古屋大学 工学研究科 佐宗 章弘 教授
	名古屋大学	ジェンダーダイバーシティセンター 町田 奈緒士 特任助教	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学 教育発達科学研究科 金井 篤子 教授
	岐阜大学	高等研究院/大学院連合創薬医療情報研究科 平島 一輝 G-YLC特任助教	学際共同研究	岐阜大学 応用生物科学部大学院連合獣医学研究科 森 崇 教授

3) 学術メンターに対するアンケート調査

令和4年3月に、上記学術メンター20名を対象に T-GEx フェローの活躍や成長に関するアンケート調査を実施した。18名から回答が得られ、以下の2点が明らかとなった。

- ① 全体的に T-GEx フェローの活躍は優れており、図 3-6-1 に示した通り、国内、国際的に「極めて優れている（5点）」との回答が 44%を占めた。また、残りの回答においても国際的に「優れている（4点）」との回答であった。
- ② 約1年間で大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー、最大3個まで）に関しては、図 3-6-2 に示した通り、「高度な専門性」や「研究推進力」が比較的高く、「世界の潮流をつかむ力」や「出口志向感覚」が課題であることが示唆された。

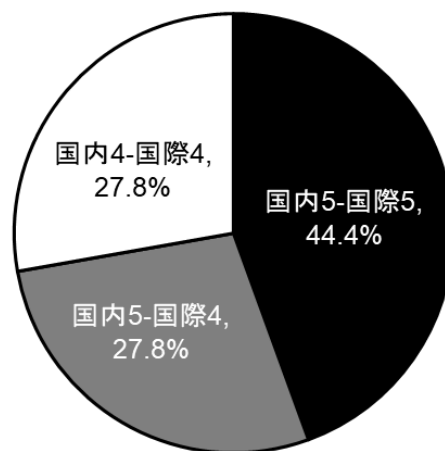


図 3-6-1 当該分野における T-GEx フェローの活躍度

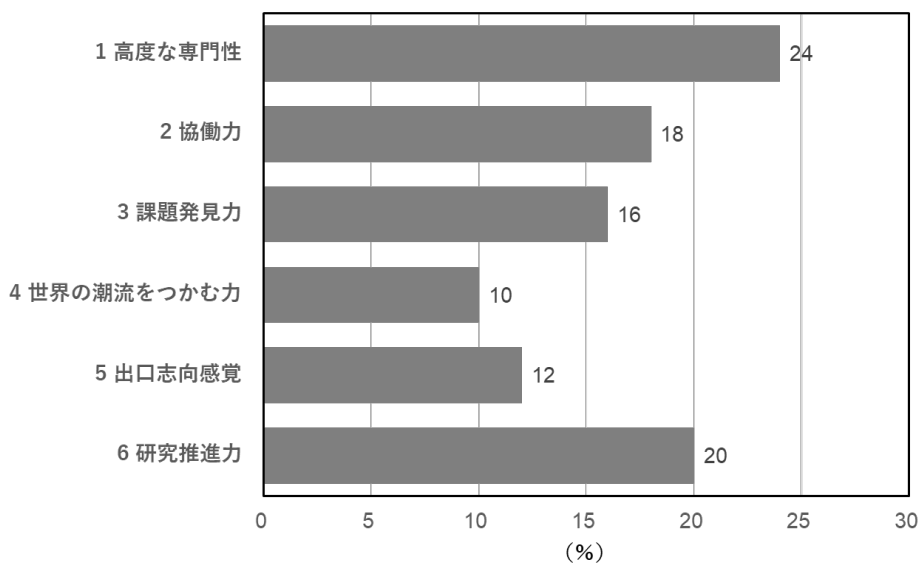


図 3-6-2 大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー）

3-8 スタートアップ研究費

フェーズ 1 における自立的な研究環境構築支援の一つとして、本事業で挑戦したい世界的課題の解決を目指す研究について、一名につき 50 万円を上限に、自身のニーズに合わせて使用できる研究費の支援を行った。

1) 令和 3 年度

令和 3 年度に採用した T-GEEx フェロー 8 名に対して、計 400 万円を支給した。

2) 令和 4 年度

令和 4 年度に採用した T-GEEx フェロー 6 名に対して、計 300 万円を支給した。

3-9 テーラーメイド型研究費

T-GEEx フェローが 5 つの育成トラック（国際共同研究、学際共同研究、産学連携、起業、拡張）から進みたいトラックを選択し、本事業で挑戦する世界的課題の解決を目指す研究について、フェーズ 2 からの協働発展力養成の支援の一つとして、その研究費を支給した。支給額については、一名につき 300 万円/年（事業初年度となる令和 3 年度は 150 万円）を上限に、T-GEEx フェローから提出されたテーラーメイド型研究費申請書を実務委員会（選考・評価委員会）で審査の上、決定した。

1) 令和 3 年度

令和 3 年度に採用した T-GEEx フェローのうち、フェーズ 2 から育成開始となった 4 名に対して、審査の上、計 600 万円を支給した。

2) 令和 4 年度

令和 3 年度に採用した T-GEEx フェローのうち、既にフェーズ 2 を開始している 4 名に加え、令和 4 年度からフェーズ 2 を開始した 4 名の計 8 名に対して、審査の上、計 2,400 万円を支給した。

3-10 シーズ共同研究費

T-GEEx フェローと T-GEEx アソシエートとの共同研究あるいは共同事業を推奨し、T-GEEx フェローがチームを形成して申請した課題のうち、実務委員会（選考・評価委員会）の審査により採択されたものについて、研究費の支援を行った。

1) 令和4年度

審査により以下の2件の課題を採択し、計200万円を支給した。

<採択課題1>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 市原 大輔 名古屋大学工学研究科 助教
【共同研究者】 T-GEEx フェロー 東 直輝 名古屋大学工学研究科 助教
T-GEEx アソシエート 近澤 未歩 名城大学農学部 助教
【研究課題名】 衝撃圧縮下における微生物不活性率の定量評価

<採択課題2>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 町田 奈緒士
名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンター 特任助教
【共同研究者】 T-GEEx アソシエート 田中 秀紀 中部大学人文学部 准教授
【研究課題名】 発達障害を持つトランスジェンダーの人々の実態についての多元的・国際的な解明

3-11 その他支援

T-GEEx フェローのうちスペース支援を希望し、スペースの確保ができた者に対して、50 m²を上限に研究スペース利用料を措置している。令和4年度は3名のフェローに対して支援を行った。

3-12 育成プログラムに関するアンケート調査

令和3年度から令和4年度にかけて実施した各種スキルブースターモジュールや支援の満足度に関して、令和5年2月に T-GEEx フェローと T-GEEx アソシエートを対象に無記名でアンケート調査を実施した。表3-11に示した通り、5段階評価で平均点はいずれも4以上と良好であった。但し、自由記述で改善の要望もあり、令和5年度の取り組みで対応していくこととした。

表 3-11 令和3年度から令和4年度に実施した各種育成プログラムに関するアンケート調査結果

年度	講座等名称	平均点
令和3年度	PI育成セミナー 『大学発ベンチャーの創り方～ベンチャー設立経験談と学内資金調達攻略～』	4.0
	PI育成セミナー 『チーム力向上のためのアンガーマネジメント』	4.5
令和4年度	PI育成セミナー 『研究指導を振り返る』	4.8
	PI育成セミナー 『伝わるデザインスキル（前編）伝わる申請書のビジュアルデザイン』	4.0
	PI育成セミナー 『伝わるデザインスキル（後編）伝わる効果的なプレゼンテーション』	4.0
	PI育成セミナー 『科研費攻略セミナー2022』	4.3
	PI育成セミナー 『研究成果を活かすための知的財産の基礎知識』	4.5
	PI育成セミナー 『チーム力を高める（前編）～指導する側とされる側の良好な関係性とは？～』	4.0
	PI育成セミナー 『チーム力を高める（後編）～指導者として必要な考え方とコミュニケーションスキルとは？～』	4.7
	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『キャリアについて考える』	5.0
	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step1』	5.0
	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『研究者にとってのタイムマネジメント』	4.4
	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『円滑なコミュニケーションのためのアンガーマネジメント』	5.0
	研究者リーダーシップ・プログラム2022 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step2』	5.0
	リトリート合宿：企画・運営	4.2
	リトリート合宿：1日目「知る日」	4.6
	リトリート合宿：2日目「創る日」	4.7
	研究成果エキシビション：企画・運営	4.3
	研究成果エキシビション	4.6
	ロールモデル研究セミナー	4.3
	学術メンター・企業アドバイザーによるメンタリング	4.0
	URAによる支援	4.5
スタートアップ研究費	4.4	
テラーメイド型研究費	4.5	
シーズ共同研究費	4.3	
名古屋大学の共通機器・図書利用	4.1	

4 モニタリング

4-1 採用した T-GEEx フェローの属性一覧

令和3年度と令和4年度に採用した T-GEEx フェローは、各々8名、6名の合計14名で、その属性は表4-1に示した通りである。平均年齢は33.3歳と比較的若く、助教が大多数を占めており、任期付き（即ち、特任助教）が育成の中心となっている。なお、令和4年度までに育成を終了した T-GEEx フェローはいない。

表4-1 令和4年度までに採用された T-GEEx フェローの属性（採用時）

		令和3年度	令和4年度	合計
採用者数（人）		8	6	14
性別	女性（人）	2	1	3
	男性（人）	6	4	10
	非該当（人）	0	1	1
国籍	日本（人）	7	6	13
	日本以外（人）	1	0	1
所属大学	名古屋大学（人）	8	5	13
	岐阜大学（人）	0	1	1
職位	准教授（人）	1	0	1
	講師（人）	0	0	0
	助教（人）	7	6	13
任期	無（人）	2	1	3
	有（人）	6	5	11
平均年齢（歳）		33.1	33.5	33.3

4-2 T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況

令和4年度までに採用した T-GEEx フェローが選択した育成トラックは、表4-2に示した通りである。「国際共同」と「学際共同」の選択が約7割を占めており、基礎研究を志向する若手研究者が多い状況となっている。一方、研究成果の社会実装を目指す「産学連携」を選択した T-GEEx フェローは約2割と限定的で、残念ながら「起業」を選択した研究者は未だ不在である。

また、表4-2に示したように、選択した育成トラックに紐づく重点目標を達成した T-GEEx フェローの率（達成率）は、2年目までで75%に達しており、順調に推移しているものと捉えている。

表4-2 T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況

育成トラックの選択（%）※複数選択有り	育成トラックに紐づく重点目標の達成率（%）											
						総合	国際共同 学際共同	産学連携	起業			
	国際共同	学際共同	産学連携	起業	拡張	達成率 （%）	Q1 ジャーナル 2報以上	外部競争 資金獲得	企業からの 資金獲得	企業との 共同出願	起業コンテ スト表彰	起業関連 資金獲得
1年目まで	64	71	21	0	43	50	15	46	0	0	-	-
2年目まで	75	63	25	0	50	75	29	57	50	0	-	-

4-3 T-GEEx フェローの研究成果の創出状況

T-GEEx フェローの採用以降の研究成果創出状況（1人当たりの平均値）を表 4-3 に示す。成果としては、学術論文および書籍、招待講演、受賞、プレスリリースおよびマスコミ報道に着目している。T-GEEx フェローの研究分野の幅が広いのに対し、未だ人数が限定的であることや、コロナ禍による一過性の影響などもあり、数値にばらつきが散見されるので、今後、人数や年度を拡大して数値変化を注視していく必要がある。

表 4-3 T-GEEx フェローの研究成果創出状況

	査読付き 原著論文 主著数	査読付き 原著論文 共著数	国際 共著	書籍	招待講演 (国際)	招待講演 (日本)	受賞	プレス リリース	報道 (新聞)	報道 (TV)
採用時	11.0	14.9	10.4	0.6	2.1	2.6	3.9	0.8	2.1	0.2
1年目	1.4	6.2	3.2	0.0	0.2	0.6	1.2	1.0	0.6	0.2
2年目	1.8	3.4	3.8	0.6	1.4	1.1	0.3	0.6	0.8	0.5

5 運営体制

5-1 実施機関

5-1-1 令和3年度および令和4年度の実施体制

本事業の代表機関は名古屋大学、共同実施機関は岐阜大学で、令和4年度末までに変更は無し。

5-1-2 運営関係者

令和3年度（事業開始時点）の運営関係者は表 5-1-1 に示した通りである。また、令和4年度末までの変更点を表 5-1-2 に示す。

表 5-1-1 令和3年度（事業開始時）の運営関係者

	大学	職名	氏名
統括責任者	名古屋大学	総長	松尾 清一
実施責任者	名古屋大学	副総長	杉山 直
共同実施責任者	名古屋大学	副学長	王 志剛
プログラスマネージャー	名古屋大学	高等研究院副院長、法学研究科 教授	武田 宏子
実務委員会委員	名古屋大学	副総長補佐、情報学研究科附属価値創造研究センター長 教授	武田 浩一
実務委員会委員	名古屋大学	副総長補佐、高等研究院副院長、生命農学研究科 教授	榊原 均
実務委員会委員	名古屋大学	未来材料・システム研究所附属高度計測技術実践センター 副センター長 教授	加藤 剛志
実務委員会委員	岐阜大学	応用生物科学部 教授	平松 研
実務委員会委員	岐阜大学	工学部 教授	嶋 睦宏
事務局			
実務担当	名古屋大学	高等研究院 准教授	菅野 里美
実務担当	名古屋大学	学術研究・産学官連携推進本部 主任リサーチ・アドミニストレーター	熊坂 真由子
実務担当	名古屋大学	教育推進部教育企画課 特任主幹	樋口 博則
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部 リサーチ・アドミニストレーター	大岡 敦子
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部 リサーチ・アドミニストレーター	横山 剛
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長	麻沼 美宝
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長補佐	水谷 泰則
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 専門員	杉本 祐美
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 事務職員	水野 理恵
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 事務員	杉山 祐子
	岐阜大学	研究推進部研究企画課 課長	江藤 直行
	岐阜大学	研究推進部研究事業課 課長	小林 利成
	岐阜大学	研究推進部研究企画課 課長補佐	伊藤 聖子
	岐阜大学	研究推進部研究事業課 課長補佐	小倉 美穂
	岐阜大学	研究推進部研究事業課 係長	岩田 英孝
	岐阜大学	研究推進部研究事業課 主任	岡本 竜太

表 5-1-2 運営関係者に関する令和4年度末までの変更点

	大学	職名		氏名	変更日および事項
統括責任者	名古屋大学	総長		杉山 直	令和4年4月1日 変更
実施責任者	名古屋大学	副総長		門松 健治	令和4年4月1日 新規
事務局					
実務担当	名古屋大学	学術研究・産学官連携推進本部	主幹リサーチ・アドミニストレーター	吉田 有人	令和4年4月1日 新規
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部	リサーチ・アドミニストレーター	大岡 敦子	令和4年9月30日 担当変更（転出）
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部	リサーチ・アドミニストレーター	山形 新之介	令和4年10月1日 新規
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部	リサーチ・アドミニストレーター	横山 剛	令和5年3月31日 退職
	岐阜大学	研究推進部研究推進課	課長	江藤 直行	令和4年3月31日 担当変更（転出）
	岐阜大学	研究推進部研究支援課	係長	岩田 英孝	令和4年3月31日 担当変更（転出）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課	研究企画グループ 専門員	松本 豊	令和4年4月1日 新規
	岐阜大学	研究推進部研究推進課	課長	小林 利成	令和4年4月1日 所属変更
	岐阜大学	研究推進部研究支援課	課長	小倉 美穂	令和4年4月1日 職名変更
	岐阜大学	研究推進部研究推進課	課長補佐	伊藤 聖子	令和4年4月1日 所属変更
	岐阜大学	研究推進部研究推進課	事務補佐員	加藤 有美	令和4年4月1日 新規
	岐阜大学	研究推進部研究支援課	課長補佐	北野 敦子	令和4年4月1日 担当変更（転入）
	岐阜大学	研究推進部研究支援課	係長	井深 綾	令和4年4月1日 担当変更（転入）
	岐阜大学	研究推進部研究支援課	主任	岡本 竜太	令和4年9月30日 担当変更（転出）
	岐阜大学	研究推進部研究支援課	主任	水野 梨都美	令和4年10月1日 担当変更（転入）

5-2 連携機関

1) 令和3年度（事業開始時点）の体制

事業開始時点の連携機関（連携学術機関、連携企業、国際協力関連連携機関）および事業推進委員は表 5-2-1 に示した通りである。

表 5-2-1 令和3年度（事業開始時）の連携機関および事業推進委員

連携学術機関	事業推進委員（所属、職名、氏名）
学校法人中部大学	副学長（学術研究担当） 磯谷 桂介
国立大学法人豊橋技術科学大学	理事・副学長（研究、将来構想、高専連携担当） 若原 昭浩
学校法人南山学園南山大学	副学長（研究推進・教育支援担当） 奥田 隆明
国立大学法人三重大学	教授（地域イノベーション学研究科） 三宅 秀人
学校法人名城大学	学術研究支援センター長 教授（理工学部 社会基盤デザイン工学科） 小高 猛司
連携企業	
愛知電機株式会社	取締役 電力カンパニー副カンパニー長兼システム開発センター長兼品質保証部担当 垣原 正樹
株式会社MTG Ventures	代表取締役 藤田 豪
株式会社デンソー	研究開発センター・技術企画部 シニアアドバイザー 川原 伸章
トヨタ自動車株式会社	先進技術統括部技術戦略企画室 プロフェッショナル・パートナー 長島 知理
株式会社豊田中央研究所	総合企画・推進部 部長 光川 典宏
Beyond Next Ventures 株式会社	執行役員 橋爪 克弥
国際協力関連連携機関	
独立行政法人国際協力機構（JICA）	JICA中部センター 所長 小森 正勝

2) 令和4年度の変更点

連携機関に関する令和4年度末までの変更点は、表5-2-2に示した通りである。

表5-2-2 令和4年度末までの事業実施体制変更点

連携学術機関	事業推進委員（所属、職名、氏名）	変更日および事項
大学共同利用機関法人自然科学研究機構	理事 井本 敬二	令和4年10月1日 新規加入
連携企業		
株式会社ネオレックス	CEO 駒井 研司	令和4年9月1日 新規加入
ダイドー株式会社	管理本部 部長 川口 嘉和	令和4年9月1日 新規加入
ラクオリア創薬株式会社	創薬研究部門探索薬理研究部 部長 須軽 英仁	令和4年9月1日 新規加入
太陽化学株式会社	ナチュラルイングリディエント事業部 研究開発G 技術フェロー 南部 宏暢	令和5年2月22日 新規加入
東レ株式会社	新事業開発部門 主幹 滝澤 聡子	令和5年2月22日 新規加入

5-3 委員会等

5-3-1 知の「開拓者」コンソーシアム総会

1) 令和3年度

- 日時：令和4年3月7日13時～15時（交流会15時～16時）
- 参加者：実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

PMより令和3年度の事業実績と、コンソーシアム規約案について説明があった。さらに、令和3年度採択のT-GEExフェローのうち2名により研究紹介とプログラムに対する抱負についての発表があり、活発な質疑応答が行われた。また、連携学術機関から募集するT-GEExアソシエートに関する諸事項として、客員研究員の身分付与、機器の共同利用、共同研究の推進と機密保持の3つのトピックスについて担当者より説明があった。

2) 令和4年度

- 日時：令和5年3月2日15時～17時（情報交換会17時15分～18時30分）
- 参加者：統括責任者、実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、外部評価委員（国内）、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 場所：名古屋大学環境総合館レクチャーホール
- 会議様式：ハイブリッド

PMより令和4年度の事業実績について説明があり、3つのトピックスが担当者より報告された（①リトリート合宿：中部大・新谷講師、②研究成果エキシビジョン：名古屋大・市原助教、③子育て世代の若手研究者支援座談会：名古屋大・菅野准教授）。さらに、PMより令和4年度の活動を踏まえた改善点を含む令和5年度の事業計画の要点や令和5年度T-GEExフェローおよびアソシエートの採用状況の説明があり、活発な質疑応答、意見交換が行われた。

5-3-2 運営協議会

1) 令和3年度

- 日時：令和4年3月4日10時30分～12時（メール審議：令和4年3月29日）
- 参加者：実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

審議事項として、知の「開拓者」コンソーシアム規約および運営協議会要項の案、株式会社豊田中央研究所との協定書案、外部評価委員会の設置の3点について審議を行い、一部修正を経て承認した。また、報告事項として、令和3年度の事業の進捗状況について説明があり、意見交換を行った他、事務局より令和3年度の知の「開拓者」コンソーシアム総会のプログラムに関して説明があった。

2) 令和4年度

- 日時：令和5年2月22日10時～11時30分（メール審議：令和4年8月26日、9月20日）
- 参加者：実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

報告事項として、PMより令和4年度の事業実績と令和5年度採用のT-GEExフェローおよびアソシエートについて説明があり、意見交換を行った。また、令和5年度の事業計画の要点、新規に加入する連携企業、令和4年度知の「開拓者」コンソーシアム総会のプログラムに関して審議を行い、承認された。

5-3-3 実務委員会

1) 令和3年度

- 頻度：年間7回（不定期、メール審議を含む）
- 参加者：プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

実務委員会では、初年度に決定すべき事業運営に関する重要な事項について協議した。また、実務委員会の中に設置したプログラム開発検証委員会において、トランスファラブルスキル向上のための各種セミナーやイベント等のモジュール開発、学術メンター設置に係る検討を行い、選考・評価委員会において、T-GEExフェローの審査要領・募集要項の策定から公募・選考まで、および競争的資金であるテラーメード型研究費の審査を実施した。

2) 令和4年度

- 頻度：年間7回（不定期、メール審議を含む）
- 参加者：プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

令和4年度の実務委員会も令和3年度とほぼ同様に実施した。令和4年度から追加となった審議事項としては、プログラム開発検証委員会では企業アドバイザー設置、選考・評価委員会ではT-GEEx アソシエートの募集・選考や競争的資金のシーズ共同研究費の審査等が挙げられる。

5-3-4 名大-岐大連携会議

- 頻度：年間8回（不定期）
- 参加者：プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：対面、オンライン（適宜）

代表機関の名古屋大学と共同実施機関の岐阜大学との情報共有や意見交換をタイムリーかつ円滑に実施するため、令和4年度より名大-岐大連携会議を設置した。連携機関拡充を含めた運営体制の改善、各種育成プログラムの充実化、予算使用状況の確認、各種予定の共有などを行い、率直な意見交換を実施した。

5-3-5 定例会議

- 頻度：週1回（定期）
- 参加者：プログラムマネージャー（PM）、名古屋大学の実務委員会委員、名古屋大学の事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

事業運営上の課題抽出と対応をスピーディーに行うため、令和4年度から代表実施機関の名古屋大学に定例会議を設置した。育成対象者の育成計画の策定から円滑な運営体制構築に至るまで事業運営上の様々な課題をタイムリーに抽出し、計画的な対応に向けた意見交換を行った。

5-4 外部評価委員

令和3年度に選定した外部評価委員候補者に対して就任を依頼し、表5-4に示した7名の外部評価委員（学術関係者5名（うち海外2名）、企業関係者2名）を決定した。さらに、プログラムマネージャーから就任いただいた外部評価委員へ個別に事業内容の説明を行い、事業運営に関する意見交換を行った。

また、外部評価委員には、「研究成果エキシビション」や「知の『開拓者』コンソーシアム総会」等の開催も案内し、一部の委員にはオンサイトで参加いただくことができ、運営の改善等に関するアドバイスをいただいた。

表5-4 外部評価委員会委員

氏名	国	所属	職名
安藤 隆穂	日本	中部大学	客員教授
Roger Goodman	イギリス	オックスフォード大学、Warden of St. Antony's College	教授
財満 鎮明	日本	名城大学	教授
Yi-Fang Tsay	台湾	台湾中央研究院分子生物学研究所	所長代理
我妻 三佳	日本	日本アイ・ビー・エム株式会社/IBMコンサルティング	執行役員
岩渕 明	日本	岩手大学	名誉教授
村瀬 賢芳	日本	日本製鉄株式会社	取締役

6 海外の先進事例調査

海外の大学における若手研究者育成支援、異分野融合への取り組みにおける好事例を収集するため、プログラムマネージャーの武田宏子教授と実務担当の菅野里美准教授の2名が令和5年3月12日～22日に海外の大学を訪問した。訪問先は、名古屋大学高等研究院が加盟するUBIAS（高等研究院連合）加盟大学のコンスタンツ大学、名古屋大学の戦略的パートナー大学のフライブルク大学とエディンバラ大学、T-GEExプログラムの外部評価委員であるRoger Goodman博士が在籍されているオックスフォード大学の4大学を選定した。

●コンスタンツ大学（ドイツ）

●日時：令和5年3月14日

UBIAS加盟大学のコンスタンツ大学の高等研究所を訪問し、所長のGiovanni Galizia博士、若手研究者雇用プログラム（Zukunftskolleg）担当のDaniela Kromrey博士、コーディネーターのSigrig Elmer、アカデミックスタッフ教育担当のMelanie Moosbuchneに話を伺った。こちらの高等研究所は、国際公募により世界中から集められた若手研究者が2年もしくは5年の雇用プログラムのもとで自由な研究に取り組んでいる。本雇用プログラムの運営状況について情報収集を行った。同高等研究所ではシニア研究者の招聘プログラムも充実しており、こちらは、若手が招聘者を選び、メンターのほか共同研究に取り組むという若手主導の取り組みがなされており、とても参考になった。また、大学として研究者の自立促進のための支援組織があり、若手研究者向けのキャリア教育、トランスファラブルスキルの教育プログラムが充実していた。教育設計についてT-GEExで提供している教育プログラムの参考にしていきたい。

●フライブルク大学（ドイツ）

●日時：令和5年3月15日

名古屋大学グローバル・マルチキャンパス推進機構では、戦略的パートナー大学の一つとしてフライブルク大学への拠点設置を進めている。今回、フライブルク大学高等研究所を訪問し、若手研究者雇用プログラム（YAS）担当Michael Vollstadt博士から若手研究者向けの雇用プログラムの運営状況、若手研究者への雇用以外の支援、および異分野融合のための取り組みについて情報収集を行なった。雇用プログラムの他に、若手同士の企画による国際会議の支援などに資金助成制度が充実していた。異分野融合については、若手の共同の場の提供が重要と考えられていた。T-GEExのシーズ共同研究費は異分野融合を目指していることから、若手主体のこれらの取り組みについて今後も意見交換を続けていきたい。

●オックスフォード大学（イギリス）

●日時：令和5年3月17日

T-GEEx プログラムの外部評価委員である Roger Goodman 博士を訪問し、博士の紹介を受けて、昨年度オックスフォードで立ち上げられたポストドク支援組織「Resercher Hub」の運営担当である Tanita Casci からお話を伺った。近年、研究グラントの大型化や、産業界、パブリックセクターからの研究費の増額が進み、任期付研究スタッフの雇用が増加した一方で、カレッジ制度のオックスフォードにおいて、これらの任期付研究スタッフはカレッジへの所属がなく、教育経験など彼らのスキルアップに繋がる機会が提供されないことが問題となっていた。そこで、若手研究者のより良いキャリアパス支援のために本組織が設けられ、2021 年から運営が開始されているとのことだった。引き続き、支援の内容や効果について情報収集し、参考にしていきたい。

●エディンバラ大学（イギリス）

●日時：令和5年3月20日

名古屋大学の戦略的パートナー大学で、連携を進めているエディンバラ大学の人文科学高等研究所（Medical humanities, Digital humanities, Environmental humanities からなる）を訪問し、所長の Dr. Lesley McAra から若手フェロシッププログラムの現状について伺った。こちらのフェロシッププログラムは 2~10 か月の短期間のプログラムだが、国際公募により世界中から優秀な若手研究者が集まる。ネットワーキング主体のため、交流イベントが多く、そのイベント自体もフェローによる運営主導が見られた。また、フェロシップ卒業生の国際ネットワークが大変充実していることも特徴であった。T-GEEx では、若手研究者間のネットワークの充実を目指しており、このような卒業生の国際ネットワーク形成についても参考にしていきたい。

今回訪問した 4 大学の若手研究者育成および支援の担当者との意見交換を通じて、アカデミアにおける教育と研究、その他の業務バランス、アカデミア以外へのキャリアパスの開拓、ワークライフバランス等の課題は、国が違っても共通している印象を受けた。一方、海外の若手研究者の支援内容はイベント開催支援などが多く、これにより他者との共同力や主体性を経験する機会が豊富で、実際にそれらの能力が高いように感じた。T-GEEx のプログラムではリーダーシップの強化を目指していることから、支援の考え方が参考になった。しかしながら、リーダーシップの形成には共同プログラムの提供のみでなく、若手研究者の独立した研究環境の拡充についても並行して取り組む必要があると考えている。

上記の 4 大学のうち、独自の若手育成プログラム（雇用）を持つコンスタンツ大学、フライブルク大学、エディンバラ大学については、所属する若手研究者と T-GEEx フェローの共同ワークショップの可能性について相談した。その結果、世界的課題をテーマとするワークショップを共同で企画・開催することについて了承が得られたので、令和5年度内の開催を目指し準備を進めていく。